

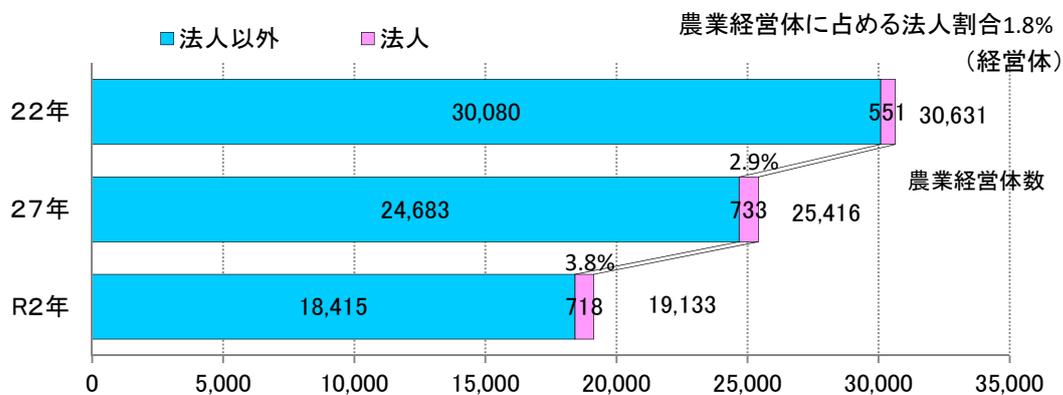
大分県の農業の現況について

大分県は、標高0mから1000m近くまで耕地が分布し、耕地面積の約70%が中山間地域に位置する起伏の多い地勢にあり、こうした地域条件を活かし、米を中心に野菜、果樹、花きの園芸作物や肉用牛をはじめとした畜産など、多様な農業が営まれている。

① 農業経営体のすがた

ア 農業経営体数

直近の農林業センサスによると、令和2年の農業経営体は19,133経営体で年々減少している。また、法人は718経営体と減少しているが、農業経営体に占める法人割合は3.8%と増加している。



農業経営体: 経営耕地面積30a又は農産物販売金額50万円相当以上の規模の農業経営を行うもの
若しくは農作業受託を行うもの
資料: 2020年農林業センサス(農林水産省)

イ 農業経営体の販売金額

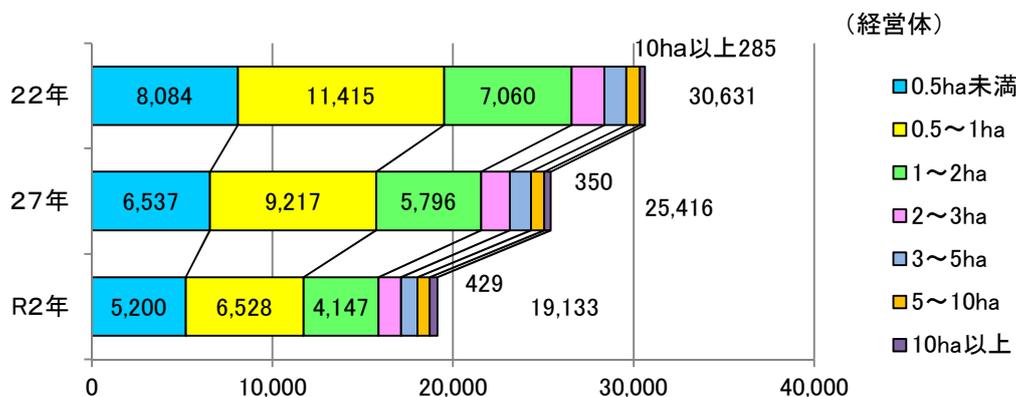
販売金額が3,000万円未満の経営体が減少する一方で、3,000万円以上の経営体は平成27年に比べ42経営体増加し、11.2%の増となった。

	H27	R2	増減 (増減率)
100万円未満	17,818	12,472	▲5,346 (▲30.0%)
100～1,000万円未満	6,265	5,287	▲978 (▲15.6%)
1,000～3,000万円未満	959	958	▲1 (▲0.1%)
3,000万円以上	374	416	42 (11.2%)

資料: 2020年農林業センサス(農林水産省)

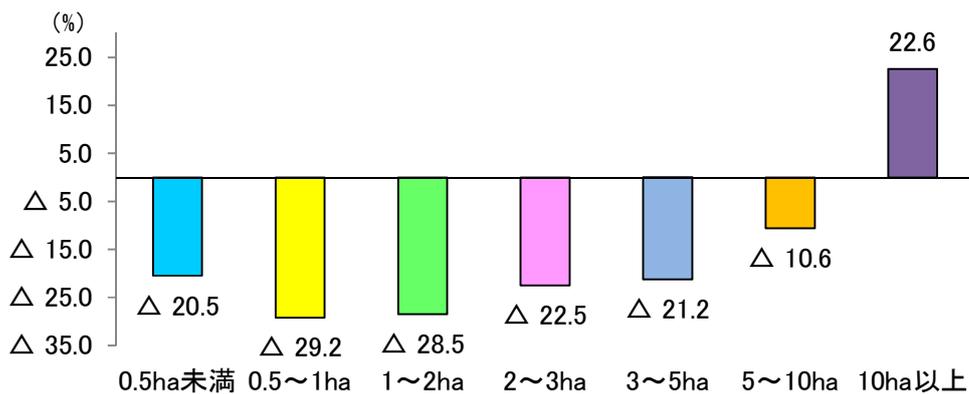
ウ 経営耕地面積規模別農業経営体数

経営耕地面積規模別の農業経営体数は、0.5ha～2ha未満の経営体が大きく減少する一方で、10ha以上の経営体は増加している。



資料: 2020年農林業センサス(農林水産省)

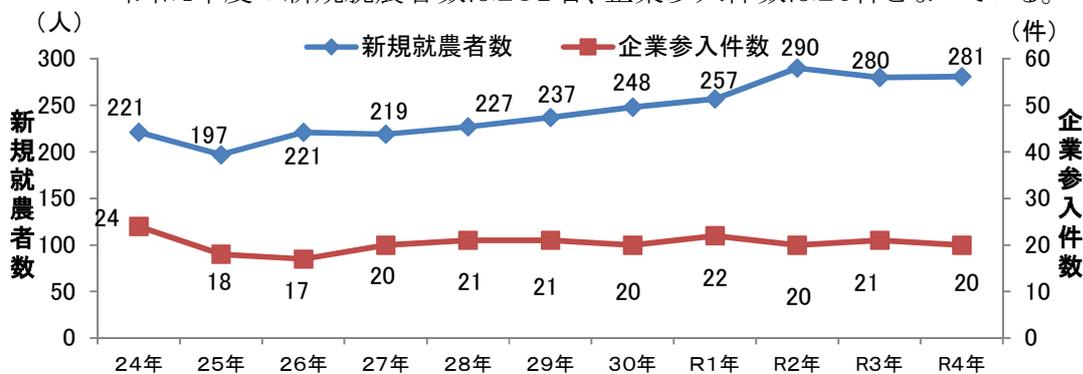
《経営耕地面積規模別の農業経営体数の増減率(R2年/27年比)》



資料: 2020年農林業センサス(農林水産省)

エ 新規就農者数と企業参入件数

令和4年度の新規就農者数は281名、企業参入件数は20件となっている。



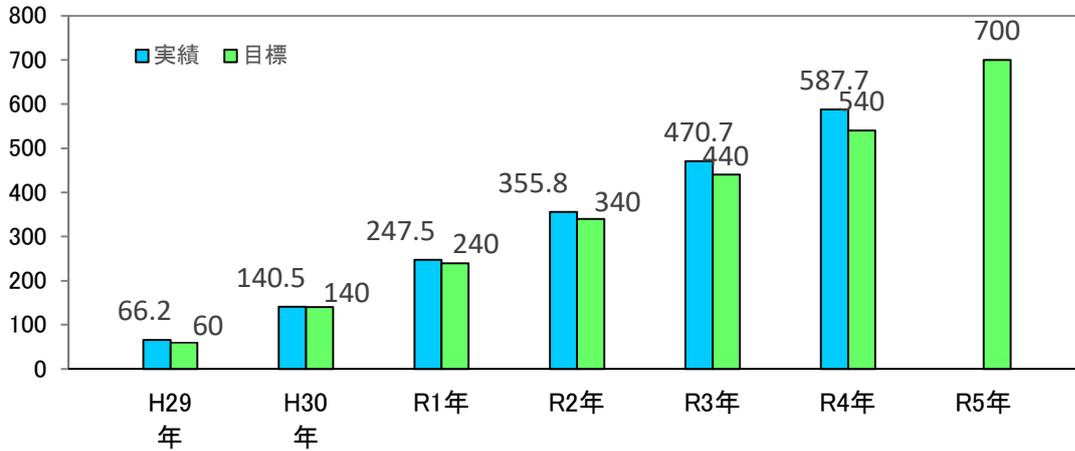
資料: 大分県(新規就業・経営体支援課)調べ

② 農地の状況

ア 水田畑地化面積

令和4年の水田畑地化面積は、前年に比べ117.0ha増加し、平成29年からの累積面積は587.7haとなり、令和4年の累積面積目標540haを上回っている。

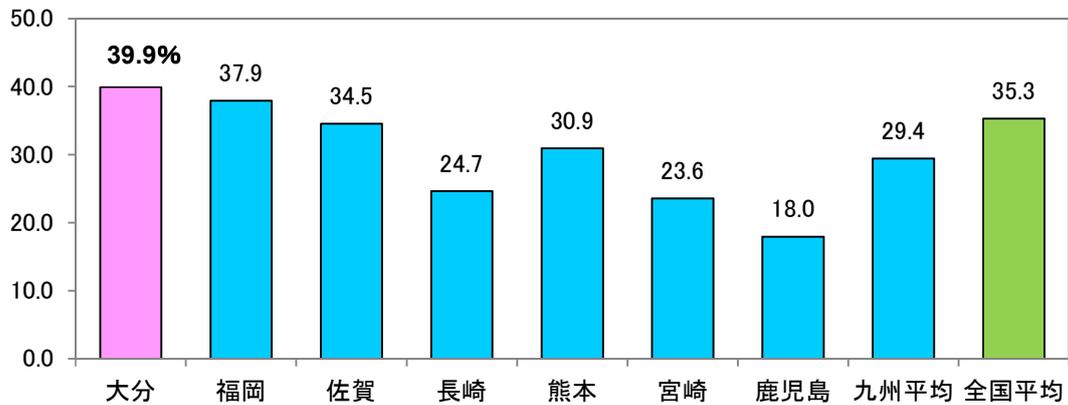
(ha)



資料:大分県(水田畑地化・集落営農課)調べ

イ 作付面積

令和3年の作付延べ面積に対する水稲の作付割合は39.9%と九州で最も高く、全国平均(35.3%)よりも高くなっている。

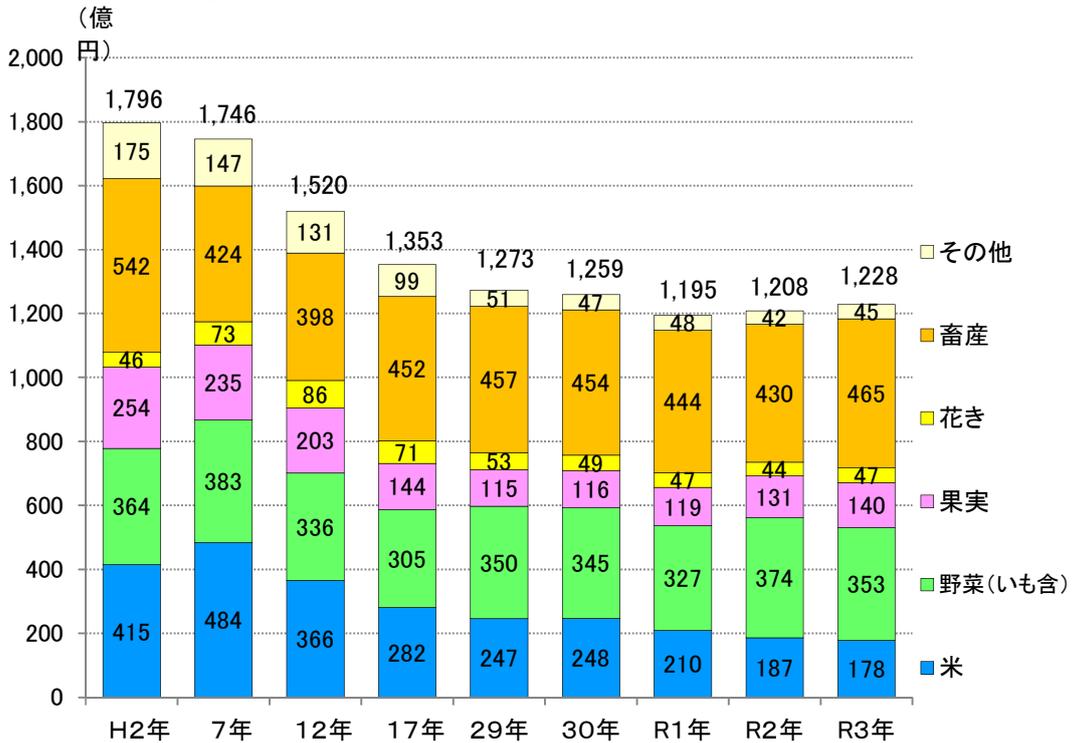


資料:耕地面積及び作付面積統計(農林水産省)

③ 農業産出額

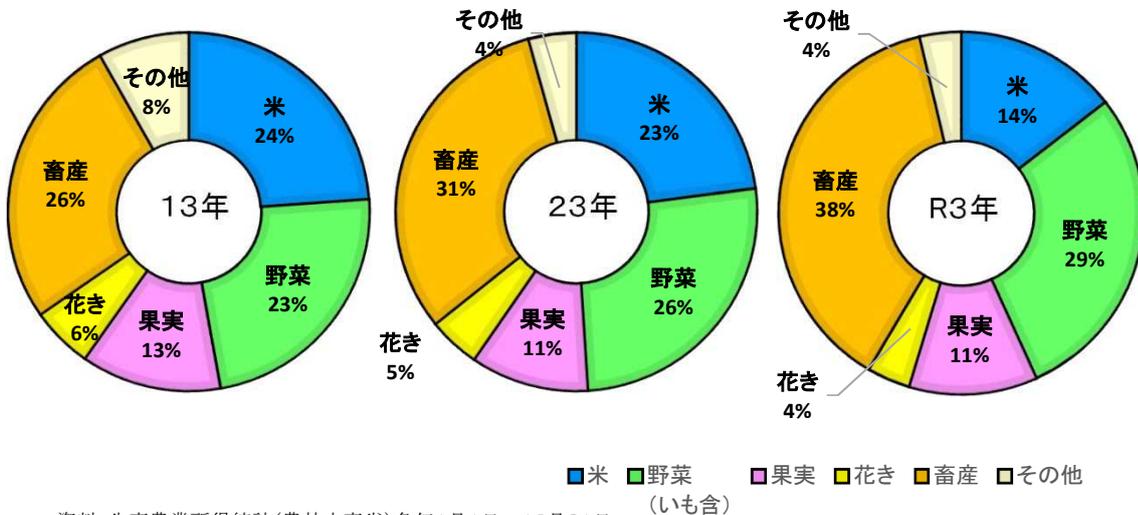
令和3年の農業産出額は、コロナ禍による巣ごもり需要の落ち着きにより価格高騰が収まった園芸において、産出額が低下したものの、増頭が進む畜産業における、外食需要の回復に伴う肉用牛価格の上昇等を受けて、1,228億円と2年連続の増加となった。

《農業産出額の推移》



資料:生産農業所得統計(農林水産省)各年1月1日~12月31日

《参考:農業産出額における各品目の占める割合》



資料:生産農業所得統計(農林水産省)各年1月1日~12月31日